

6. 介護ロボットの取り扱いに向けた人材育成について

6-1. 調査概要

(1) 調査の目的

将来的な人材育成の在り方についても視野に入れ、福祉用具貸与事業者における介護ロボットの取り扱いに必要となる人材育成についても調査対象とし、現状の取り扱い状況、介護施設への介護ロボットに関する導入支援の実態把握を行うことを目的にヒアリング調査を行い、今後の課題について整理した。

(2) 調査対象

「4. ヒアリング調査の実施」に追加して、現時点で介護施設への介護ロボットの導入支援を積極的に実施している福祉用具貸与事業者を対象にヒアリング調査を行った。

- 日本基準寝具株式会社
- 株式会社マルベリー

(3) 調査期間

令和3年1月～2月

(4) 調査方法

訪問またはWEB会議システムにて実施

(5) 調査項目

介護施設における介護ロボット導入プロセスにおいて、現状、介護ロボットメーカーが実施している対応内容に対し、福祉用具専門相談員による対応の可能性について、以下のとおり仮説を設定し、「福祉用具専門相談員に求められる知識・能力」において現時点で対応している具体例や今後の課題を把握することとした。

1. 介護ロボットの導入支援について
 - (1) 介護施設への導入支援を開始したきっかけ、経緯
 - (2) 介護施設への導入実績（施設数、介護ロボットの種類）
 - (3) 導入支援に関する人材育成
2. 具体的な導入支援について
 - (1) 導入検討
 - (2) 設置・操作習得
 - (3) 運用
3. 介護ロボットの導入支援を行うにあたっての課題について

【本調査の仮説】

福祉用具の使用方や留意事項の説明、メンテナンスを行っている福祉用具専門相談員は、介護ロボットの操作方法の指導やメンテナンス等についても対応できる部分があるのではないかと。

図表 101 介護施設における介護ロボットの導入プロセスにおける、福祉用具専門相談員による役割の可能性（仮説）

介護施設	検討段階	準備段階・試用段階	運用段階
<p>介護施設の課題・要望 ⇒福祉用具専門相談員による役割の可能性</p> <p>「福祉用具専門相談員に求められる知識・能力」</p> <p>太字：専門性の高い知識・能力</p> <p>下線：今後さらに期待される知識・能力</p> <p>斜体：地域の福祉用具貸与事業所が対応することによる施設のメリット</p>	<ul style="list-style-type: none"> どこに相談すればよいかわからない ⇒地域の福祉用具貸与事業所への声掛けや事業所からの製品情報等の発信 どのような機器があるのかわからない ⇒「多様な福祉用具や新製品に関する詳細な知識」による提案 試しに使ってみたい ⇒複数機器メーカーとの窓口・試用調整 利用者にあった機器を選定したい ⇒「利用者や環境に応じた適切な用具選定能力」の発揮 	<ul style="list-style-type: none"> メーカー設置後の微調整等が困難、設置したがセンサーが上手く作動しない ⇒「当該機器の利用者や業務に応じた調整能力」の発揮 ⇒「搬入・搬出のきめこまかい調整能力」の発揮 職員が操作を覚えるまで指導してもらいたい ⇒「利用者や環境の状況に応じた利用指導・適合調整能力」の発揮 どのようにオペレーションを変更したらよいかわからない ⇒地域の他施設・事業所での活用状況等を踏まえた提案 	<ul style="list-style-type: none"> 活用状況の確認や利用者変更時の再調整等の対応をしてもらいたい ⇒「当該機器の利用者や業務に応じた調整能力」の発揮 定期的なメンテナンスを実施してもらいたい ⇒「適切に福祉用具の調整・メンテナンスを行う能力」の発揮 不具合発生時に直ぐに対応（修理・交換等）してもらいたい ⇒「福祉用具に関わる事故の防止に努め、問題発生時に迅速・適切な対応を行う能力」の発揮 機器活用に関する勉強会等を定期的に実施してもらいたい ⇒地域の福祉用具専門相談員が講師となる、地域の他施設との合同で勉強会開催の声掛け等を実施
開発メーカー 販売代理店	<ul style="list-style-type: none"> 問合せ対応 機器説明 試用貸出 	<ul style="list-style-type: none"> 問合せ対応 施設の環境整備 機器の設置・調整 操作方法の説明 	<ul style="list-style-type: none"> 問合せ対応 機器のメンテナンス 機器の交換 操作方法の指導

※介護施設における介護ロボットの導入プロセスは、「介護ロボットの効果的な活用のための手引き」（平成30年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）介護ロボットの効果的な活用方法に関する研究事業 株式会社三菱総合研究所）P58を参考に作成

6-2. ヒアリング調査結果

(1) 介護ロボットの導入支援（人材育成）について

- ・ 5～6 年前より実証開発事業や普及事業に携わったことが、介護ロボットの導入支援のきっかけである。現在は介護ロボットのすべての重点分野について、導入支援を行っている。
 - ・ 60～70 名の専門相談員がおり、介護ロボットに関与する職員は 15～20 名程度である。
 - ・ 見守り機器については、相手施設の状況にもよるが、機器の選定からセンサーの設置までメーカーと共同で行っている。
 - ・ 見守り機器は通信関係の専門的な知識が必要となるため、自社の福祉用具専門相談員のみで対応することが難しいが、移乗支援機器は福祉用具専門相談員でも対応可能である。
 - ・ 社内での介護ロボットに関する勉強会や地域での展示会を行っており、介護ロボットメーカーに参加をお願いし、そういった場で情報収集している。
-
- ・ 2016 年より介護ロボットの取り扱いを始め、翌年から介護ロボット普及推進事業の採択を受け、本格的に介護ロボットの導入支援を開始した（今年度も実施中）。見守り機器が一番多く導入支援しているが、移乗支援（装着／非装着）の導入にも力を入れている。他の分野についても導入支援を行っている。
 - ・ 介護ロボットを担当する部署を昨年 4 月より発足した（現在 3 名体制）。内 2 名は関連会社で医療部品を担当していた社員である。地域によっては、事業所の福祉用具専門相談員が現在も対応している。
 - ・ 介護ロボットに関する補助金等も確認しつつ、介護ロボットの使い方・注意点をスタッフ各自で学んでいる。介護ロボットの知識習得が大変ではあったが、施設から感謝されることもあり、今では積極的に学ぶようになっている。近年はメーカーによる動画配信もあり、時間・場所を問わず使用方法を学ぶことができるようになった。
 - ・ 見守り機器に必要な通信環境の整備については当社では対応できない部分であり、工事業者を施設に紹介した。
 - ・ 機器の初期導入時はメーカーにも対応いただいているが、メーカーも人員が限られているため、自社で一定程度の知識とスキルを習得し、地域内の展示会での介護ロボットの展示を行えるようにしている。

(2) 具体的な導入支援について

施設からの相談や要望等、介護ロボットの導入支援の各段階別に、現在の支援の実施状況を伺った。

※「施設からの要望（例）」は事務局にて予め想定した要望である。「その他」はヒアリングの際に追加で挙げられた要望への対応状況である。

1) 導入段階

施設からの要望 (例)	実施状況
どこに相談すればよいか わからない	<ul style="list-style-type: none"> 支援開始当初は、補助金の活用や働き方改革を絡め、積極的に介護ロボットの導入に関して施設への営業を行った。最近では営業の効果もあり、逆に施設から相談されることも増えてきた。 介護ロボット導入支援事業における問い合わせ先として記載されており、対応している。
施設からの要望 (例)	実施状況
どのような機器があるの かわからない	<ul style="list-style-type: none"> 機器の提案も行っているものの、課題解決のための相談よりは、「何かいい商品があるか」など漠然とした相談が多い印象である。※2社共通で回答あり 介護ロボット普及推進センターに介護ロボットを展示し、どのような機器があるのか紹介できるようにしている。 <u>限られた予算のうちで、最適な使用方法を一緒に考えることが多い。</u> 相談があった際、導入したい機器を決めている施設は実際に導入に繋がる一方で、漠然とした相談をしてくる施設においては導入に至らないことが多い。
試しに使ってみたい	<ul style="list-style-type: none"> 全ての介護ロボットの試用貸し出しを行っている。見守り機器ではメーカーとの調整役を担っている。<u>移乗支援や排泄支援については自社で製品を保持しているため、施設での動作確認等の対応も行っている。</u> 1施設につき9か月間、無償で貸し出しを行っており、来年度の導入につながればと考えている。以前は貸し出し期間3か月としていたが、施設から「期間が短く、効果検証ができない」と指摘を受け、貸し出し期間を延長した。
利用者にあった機器を選 定したい	<ul style="list-style-type: none"> 現地で相談内容を伺い、介護ロボットの提案を行っている。<u>施設種別や利用者別でも状況や課題が異なるため、注意して話を伺い機器の選定を行っている。</u>
<u>通信環境を整備したい</u>	<ul style="list-style-type: none"> <u>見守り機器に関する通信環境の整備について自社のみで行うことは難しい。</u>通信環境の整備から必要となる施設の場合は、機器メーカーに工事業者を紹介いただいている。通信環境が整備されている場合には、施設とメーカー、システム関連の企業の3社で調整が必要であり負担が大きい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 施設の状況を考慮して福祉用具専門相談員が介護ロボットの選定を行っているものの、例えば「見守り機器を3台導入したことで、施設業務が大きく改善した」という報告はなく、他施設へ機器の効果を説明することが難しい。 介護ロボットの導入を検討施設でも、機器の価格が下がる、今よりも性能があがることを見越して、導入のタイミングを計っている様子を感じる。

2) 準備段階・試用段階

施設の課題・要望（例）	実施状況
メーカー設置後の微調整等が困難、設置したがセンサーが上手く作動しない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機器の微調整や微修正は福祉用具専門相談員が行っている。<u>知識を持った福祉用具専門相談員であれば一定程度の初期対応が可能</u>である。 ・ 導入後の微調整について対応しているが、機器自体の設置場所の変更をしたい等の相談はあまりない。 ・ 遠隔で設定調整等の操作ができる見守り機器もあるためID、パスワードを施設に教えてもらい、福祉用具専門相談員が遠隔で機器の調整を行うこともある。
職員が操作を覚えるまで指導してもらいたい	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>施設職員向けに操作説明を行っている</u>。日勤と夜勤の職人がいるため、核となる職員を中心に説明を行い、その職員が他の職員に指導していくことが多い。 ・ ユニット型の施設ではユニットリーダーに操作方法を説明し、ユニットリーダーから他の職員に伝えるようにしている。今後、メーカーと共同で、オンラインで操作方法を説明することも検討している。 ・ <u>機器の導入後、1か月から10か月間は意識的に導入施設に訪問し、適切に使用されているか確認</u>するようにしている。導入後、職員の入れ替り等により使用しなくなるケースもあるためである。
どのようにオペレーションを変更したらよいかわからない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設からの関心が一番大きい点であり、他施設でどのようなオペレーション変更を行っているかという質問が多い。オペレーション変更については、自社で培った知見以外にも都内の有料老人ホーム等の情報を参考にしている。 ・ オペレーションの変更までの相談はないが、<u>介護ロボットの効果的な活用方法に関する相談が多い</u>。その際、<u>現地に行き、実際の使用環境で操作方法の説明を行うようにしている</u>。 ・ <u>他施設の事例やメーカーから活用事例の情報を収集し、施設に提供している</u>。

3) 運用段階

施設の課題・要望（例）	実施状況
活用状況の確認や利用者変更時の再調整等の対応をしてもらいたい	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>定期的ではないが、日頃から訪問している施設では、その際に機器の確認を行っている。</u> ・ 事例としては現状ないが、「いつでも連絡・相談をしてほしい」と声を掛けている。
定期的なメンテナンスを実施してもらいたい	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>メンテナンスが必要な機器は見守り機器が多く、福祉用具専門相談員が仲介に入り、メーカーに対応を依頼している。</u> ・ <u>移乗支援（非装着）はリフトと近い機器であり、従来の専門相談員のスキルや知識で、ある程度対応が可能である。</u> ・ 移乗支援（装着）についても、積極的に勉強しており、福祉用具専門相談員でも対応できるようになっている。 ・ 排泄支援機器は、導入した機器の多くは自動ラップの機器であり、福祉用具専門相談員のみで対応可能である。
不具合発生時に直ぐに対応（修理・交換等）してもらいたい	<ul style="list-style-type: none"> ・ メーカーからマニュアルを受領し確認しているが、機器自体には問題がなく、センサーや通信系に問題があることが多い。不具合・修理が必要な場合、メーカー・施設から報告をもらい、状況把握は行っている。 ・ <u>見守り機器は福祉用具専門相談員のみで対応が難しいものの、移乗支援や移動支援の介護ロボットは通常取り扱っている福祉用具の延長と捉えられるため、既存の福祉用具専門相談員のスキルで対応可能である。</u> ・ 現時点では不具合事例は発生していない。
機器活用に関する勉強会等を定期的実施してもらいたい	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>テクノエイド協会の介護ロボットフォーラムなどの展示会や研修会の情報を施設に提供している。</u> ・ 県主体の「ICT 及び介護ロボットのセミナー」では、補助の仕組みの説明を行った。介護ロボットの勉強会で、製品に関する説明まではまだ行っていない。
(その他)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度は新型コロナウイルスの影響で施設への出入りが難しく、相談内容も感染症対策関連が多かった。他には、補助金関連の相談が多くあった。 ・ 他社を通じて導入した介護ロボットについて、不具合発生時等、どこに相談すべきかわからないということがある。 ・ 導入後に使用していない機器の効果的な活用方法を再度教えてほしいと依頼があり、再度説明に行ったことで、効果的な活用に繋がり、追加導入に繋がったケースがある。

(3) 介護ロボットの導入支援を行うにあたっての課題について

<p>知識・技術の習得について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>知識の習得は介護ロボットフォーラムや展示会での情報収集が主である。今年度は新型コロナウイルスの影響により、情報収集の機会が非常に少なかった。</u> ・ <u>介護ロボットのメンテナンス技術は当社の課題と感じている。介護保険による福祉用具貸与の対象となっている移乗支援機器については対応できるが、他の機器については当社のみでは対応できない状況にある。排泄支援機器については施設からの要望は多いが、利用者との適合や機器の運用、福祉用具専門相談員によるメンテナンスが難しいなどの理由により導入に至っていない。</u> ・ <u>知識の習得は大きな課題である。今年度は、新型コロナウイルスの影響により、メーカーの担当者に来てもらうことができず、HPでの新商品紹介の情報だけでは情報不足と感じる。特に通信関係は知識の習得が難しい。現状は介護ロボットの導入支援を積極的に行う福祉用具専門相談員の熱意により、知識やスキルを身につけている。</u> ・ <u>現在販売されている介護ロボットの一覧が把握できるようなHPがあるとよい。現在は介護ロボットポータルサイトやテクノエイド協会のHPで情報収集を行っている。</u>
<p>制度面の整備について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護施設での介護ロボットの普及にあたっては、導入時の支援だけでなく、導入後の支援も必要である。 ・ 介護関連の教育機関における教育内容について、介護ロボットへの理解を含めることも重要である。 ・ 介護報酬による介護ロボットの導入支援もあると、介護施設へ更に普及していくのではないか。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務作業の多さやサービス担当者会議への出席など、本業の福祉用具貸与で手一杯になっており、介護ロボットの導入支援までは対応できない福祉用具貸与事業所が多いのではないか。 ・ 本社と各事業所との介護ロボットに関する導入事例の共有が課題である。施設別の導入事例の収集ができているため、今後共有できるようにしていきたい。 ・ 経産省と厚労省でロボットへの考え方が違うため、現場が混乱している。 ・ <u>HPも更新されておらず廃番になった機器が未だにあり、新しい製品の情報も入っていない。現在販売されている商品名の一覧が把握できるようなHPがあるとよいと思う。</u> ・ 現在、介護ロボットのポータルサイトやテクノエイド協会のHPで情報収集を行っている。

6-3. 介護ロボットの取り扱いに向けた調査のまとめ

(1) 積極的に介護ロボットを取り扱っている福祉用具貸与事業者の実態

- 介護ロボット導入施設のヒアリング調査結果では、介護ロボットを安全かつ効果的に使用するために、操作説明や設置・メンテナンス等、定期的な活用状況のフォローアップが望まれている。(4-3.(2) 介護ロボットの取り扱いに関する人材育成について、参照)
- 現時点においても、一部の福祉用具貸与事業者においては、介護ロボットの導入にあたり、介護施設から相談を受け、施設の課題を踏まえた機器の提案(製品情報の提供)やメーカーとの調整等を実施していることが本ヒアリング調査の結果から把握できた。
- また、導入だけでなく、設置や職員への操作説明も実施しているとともに、導入後、継続的に使用できているかの確認も行っており、本調査開始時点に仮説として、「福祉用具の使用方法や留意事項の説明、メンテナンスを行っている福祉用具専門相談員は、介護ロボットの操作方法の指導やメンテナンス等についても対応できる部分があるのではないか」と想定していた事項については、福祉用具貸与事業所と福祉用具専門相談員が有する専門性を発揮した支援が行われていることが把握できた。
- しかし、移乗支援(非装着)のように、通常取り扱っているリフト等と同様の機能の機器については、福祉用具のメンテナンスの知識やスキルの延長として対応することが可能とのことだったが、見守り機器については、導入時のインターネット環境の構築やセンサー部分のメンテナンス等については、対応が困難であるとのことだった。
- また、介護ロボットに関する知識やスキルの習得については、福祉用具専門相談員個々の熱意や積極性に委ねられている状況であるとともに、機器情報や取り扱いにあたっての知識・スキルの習得は展示会やメーカーからの製品説明(事業者としてメーカー担当者に依頼)、メーカーのホームページや動画の閲覧に留まっている。

(2) 具体的な実践例を踏まえた課題と今後必要となる対応

- 本調査開始時点に検討した仮説をもとに、施設の課題・要望に対する実践例(ヒアリング調査結果)を整理し、現状の課題と今後必要となる対応について検討した。

図表 102 施設の課題・要望に対する実践例と今後必要となる対応（案）

	施設の課題・要望	実践例 (ヒアリング調査結果)	現状の課題と 今後必要となる対応（案）
導入段階	どこに相談すればよいかわからない	積極的に介護ロボットの導入に関して施設への営業を行った。介護ロボットの取り扱いが可能であることを周知していることで、施設からの相談がある。	福祉用具貸与事業者による施設への積極的な営業・周知が必要 ⇒福祉用具貸与事業所が相談役として対応できる <u>役割の明確化</u>
	試しに使ってみたい	試用貸し出しの対応やメーカーとの調整役を担っている。機器によっては施設での動作確認等の対応も行っている。	通信環境の整備が必要な場合には、福祉用具貸与事業者のみでの対応が困難 ⇒福祉用具貸与事業者が対応する <u>範囲や役割の整理</u>
	どのような機器があるのかわからない	機器の提案を行っている。最適な使用方法も施設と一緒に検討している。	展示会や個々のメーカーHPでの情報収集に留まる ⇒介護ロボットの製品情報が集約されたホームページ等の <u>情報収集先の整備</u>
	利用者にあった機器を選定したい	施設種別や利用者別でも状況や課題が異なるため、現地で相談内容を伺い、機器の選定を行っている。	
準備段階・試用段階	どのようにオペレーションを変更したらよいかわからない	他施設の事例やメーカーから活用事例の情報を収集し、施設に提供している。現地に行き、実際の使用環境で操作方法の説明を行っている。	福祉用具貸与事業者が蓄積した個々の事例やメーカーからの事例の提供に留まる ⇒介護ロボットの効果的な活用事例が集約されたホームページ等の <u>情報収集先の整備</u>
	メーカー設置後の微調整等が困難、設置したがセンサーが上手く作動しない	知識を持った福祉用具専門相談員であれば一定程度の初期対応が可能である。	製品情報、設置、調整、操作方法等の知識・スキルの習得は、個々の福祉用具専門相談員の熱意による（組織的な習得支援や機会がない） ⇒必要な知識・能力としての <u>明確化</u> ⇒ <u>知識・能力の習得の機会を整備</u> (研修カリキュラムの見直しやガイドライン、マニュアル等の作成)
	職員が操作を覚えるまで指導してもらいたい	施設職員へ操作説明を行っている。導入後も意識的に施設訪問し、適切に使用されているか確認している。	
運用段階	定期的なメンテナンスを実施してもらいたい	メンテナンスが必要な機器は見守り機器が多く、福祉用具専門相談員がメーカーに対応を依頼している。移乗支援（非装着）はリフトと近い機器であり、従来のスキルや知識で、ある程度対応が可能である。	
	不具合発生時に直ぐに対応（修理・交換等）してもらいたい		
	活用状況の確認や利用者変更時の再調整等の対応をしてもらいたい	日頃から訪問している施設では、その際に機器の確認を行っている。「いつでも連絡・相談をしてほしい」と声を掛けている。	福祉用具専門相談員個々の情報収集や対応に留まる ⇒活用状況を踏まえたケア方法の変更や機器利用場面、対象利用者の変更等、ケアの質の向上及び施設職員の負担軽減に向けた提案するための知識習得の <u>機会の整備</u> ⇒展示会や研修会等の <u>情報収集先の整備</u>
	機器活用に関する勉強会等を定期的実施してもらいたい	介護ロボットフォーラムなどの展示会や研修会の情報を施設に提供している。	

- 現在、介護施設への介護ロボットの導入支援を積極的に実施している福祉用具貸与事業者における導入プロセス別の実践例と課題及び今後必要となる対応（案）を前頁の図表 102 のとおりである。また、介護ロボットの取り扱いにあたっては、機器の活用場面、特性によっても異なることがヒアリング調査結果から分かった。
- 自立支援に繋がる機器（移乗支援、移動支援、排泄支援等）については、既に福祉用具貸与種目において取り扱いが可能となっている介護ロボットもあり、施設においても1利用者対1介護者という関係で使用する場合などがあることから、在宅利用者への機器選定及び、利用者・介護者への取り扱い・操作方法の説明においては大きな違いはなく、既に福祉用具専門相談員に求められる知識・能力として備えている部分である。
- しかし、見守り機器のように複数利用者対1介護者という関係で使用される介護ロボットについては、対象とする利用者の選定や施設におけるケアの方針・対応方法等により、その機器の活用場面やニーズが異なり、既存の知識・能力に加えて、更なる対応スキルが必要となる。
- 介護ロボットは、機種等によっては高額な機器もあり、導入を検討している福祉施設に対し、補助金の活用等、財政面での支援策についても提案することが有益であり、介護ロボットの機器情報だけでなく、制度面についても理解し、説明できる必要がある。
- 上記を前提に、以下に今後必要となる対応について提言する。

◇ 福祉用具貸与事業者の役割を明確化

- 福祉用具貸与事業者の役割として、福祉用具の貸与・販売および住宅改修が主な役割として認知されている状況と考えられ、主なサービス提供対象は在宅利用者であることから、現状、介護ロボットの導入支援を行うことができる点については、福祉用具貸与事業者個々の対応（営業活動等）に委ねられている。
- よって、福祉用具貸与事業者の役割として、介護ロボットの導入支援等を明確にし、展開を図ることで、介護施設における介護ロボットの積極的な取組みに繋がるものと考えられる。
- 現状は、メーカーによる個々の機器に関する提案・導入支援に留まっており、かつ、遠方の場合にはフォローアップが行き届かないケースもある。介護施設の近隣に所在している福祉用具貸与事業者が介護ロボット導入にあたっての相談役となり、機器の提案や通信環境の整備（自社で対応できずとも、専門業者に繋ぐ等）、機器の設置及び操作説明等を担うことが可能となれば、全国の福祉用具貸与事業者が各地域の中で迅速な対応ができ、かつ、複数メーカーの機器の中から介護施設の

導入目的に応じた機器を中立的な立場から提案・選定することができると考えられる。

- 介護施設では、導入後、効果的な機器の使用が上手くできず、使用されなくなるケースもあり、。地域の福祉用具貸与事業者が介護施設へのフォローアップを行うことで、継続的かつ効果的に機器を活用していくにあたっての支援や、安全性担保のための定期的なメンテナンス等の対応を行うことができるようになれば、介護施設も安心して介護ロボットの導入を検討することができるのではないかと考えられる。また、介護ロボットの普及による介護現場の負担軽減にも寄与するためには、福祉用具専門相談員は、現状不足している知識・能力を習得する必要がある、かつ、介護施設への介護ロボット導入支援においてどのような役割が期待されているのか理解を深めることが重要である。

◇ 知識・能力の習得の機会を整備

- 現在、福祉用具専門相談員は「福祉用具専門相談員に求められる知識・能力」を基本とし、主に在宅利用者への福祉用具貸与サービスの提供にあたって必要とされる知識・能力の習得を目的とした福祉用具専門相談員指定講習や更新研修のカリキュラムが構築されており（図表 103 下線部分が該当すると想定される）、その知識・能力を活かし、移乗支援、移動支援、排泄支援等の介護ロボットへの対応を行っており、介護施設においても、同様にその能力を担っていくことが考えられる。
- しかしながら、見守り機器の取り扱いについては、介護施設やケアの方法等も把握し、質を維持した上での効率的なケアに寄与する機器の提案が必要となる。更に新たに介護ロボットを導入することによって生じる介護業務のオペレーションの変化についても理解しておく必要がある。
- よって、現状の福祉用具専門相談員としての知識・能力に加え、介護施設における福祉用具・介護ロボットの製品知識や提案力を学ぶ必要があることから、研修カリキュラムの見直しやガイドライン、マニュアル等の整備・周知が求められる。

図表 103 福祉用具専門相談員に求められる知識・能力

<p>今後さらに期待される知識・能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門性や経験に基づく積極的な選定、提案、アドバイスの提供（状況を読んだプラスアルファの提案、先を見越した提案、複数の選択肢、自立に向けたアドバイスなど） ・ 利用者の気持ちを汲み取る姿勢や制度等に関する相手に合わせたわかりやすく丁寧な説明など ・ チームの一員としての主体的な参加（担当者会議出席、発言、熱意、一緒に取り組む姿勢） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉用具に関わる事故の防止に努め、問題発生時に迅速・適切な対応を行う能力 ・ 福祉用具の選定理由、想定される効果やできること、生活のイメージを利用者・家族やケアチームに対してわかりやすく説明する能力 ・ 適切に福祉用具の調整・メンテナンスを行う能力 ・ チームの他職種の要望に対応したサービス提供 ・ 事業所や地域内で、経験の浅い福祉用具専門相談員に対する育成・指導、業務におけるスーパービジョンを行う能力
<p>専門性の高い知識・能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護保険サービスに関する最新かつ正確な知識 ・ 多様な福祉用具に関する知識 ・ 新製品に関する詳細な知識 ・ 機種別の構造、機能の違い、適用に関する知識 ・ 住環境と福祉用具の関連に関する経験に基づく具体的な知識 ・ 接遇・コミュニケーションに関する豊富な知識 ・ 認知症の症状や特徴を踏まえた関わり方に関する知識 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉用具に関する情報提供・生活全般についての相談対応能力 ・ 的確なアセスメント（利用者・環境の評価）能力 ・ 利用者や環境に応じた適切な用具選定能力 ・ 搬入・設置・搬出のきめこまかい調整能力 ・ 利用者や環境の状況に応じた利用指導・適合調整能力 ・ 状況変化をとらえるフォロー・モニタリング能力 ・ 状況に応じた利用者・家族とのコミュニケーション能力 ・ サービス担当者会議での発言・説明・提案能力 ・ ケアマネジャーと円滑に連携する能力
<p>基本的な知識・能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護保険制度の基本的な知識 ・ 福祉用具サービスに関する基本的な知識 ・ 福祉用具の種類・機構・特性等に関する基本的な知識 ・ サービス提供の基本的な手順 ・ 住環境と住宅改修に関する基本的な知識 	<ul style="list-style-type: none"> ・ (基本的な) 用具選定能力 ・ (基本的な) 搬入・設置・搬出の能力 ・ (基本的な) 利用指導・適合調整の能力 ・ (基本的な) フォロー・モニタリング能力 ・ (基本的な) 利用者・家族とのコミュニケーション能力
	<p>知識</p>	<p>能力</p>

(出所)「専門的知識を有する福祉用具専門相談員の養成に向けた研修内容に関する調査研究事業」

(平成 26 年度老健事業 一般社団法人日本福祉用具供給協会) より抜粋

※下線部分は、介護ロボットの取り扱いに関連すると想定される項目